



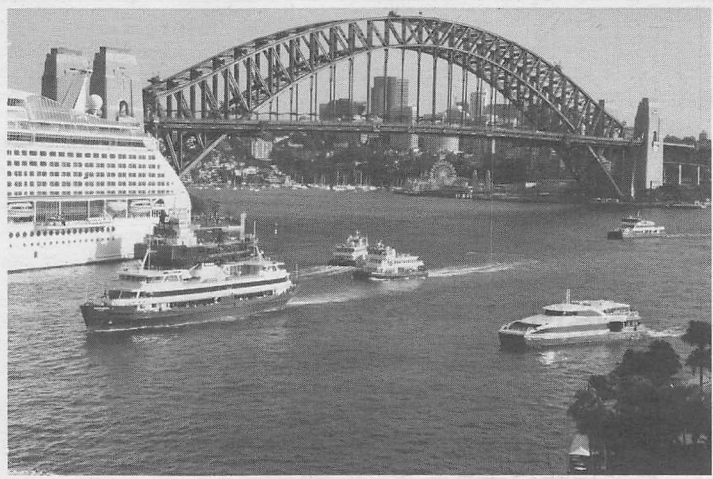
池田 良穂 (大阪府立大学の名誉教授、客員教授)
新 クルーズ 学

大阪湾は南北に約60キロ、東西に約30キロが広がっています。それが関西国際空港が開設された時、国も神戸市という二大都市あわせて空港への海上アクセスの可能性を調査しました。そして、神戸市街と関西空港を結ぶ海上ルートが開設されました。

自動車社会に移行した後も、車と人を運ぶカーフェリーや、人だけを高速で運ぶ高速旅客船が多くの航路で活躍しています。この状況が一変しました。これは、明石海峡大橋が開通して陸路がつながって、車で対岸まで行き来ができるようになったことでした。

こうして廃れた大阪湾の海上交通でしたが、一

つ、今もその航路が維持されています。



たくさんの小型客船が稼働するシドニー港

となり、ここに海の玄関口ができれば、大きなメリットとなります。

ただし、小型客船による海上アクセスの経営は思ったほど容易ではありません。それは鉄道やバスなどの陸上輸送との競争の中で、それに対する競争力を確保するのが難しいためです。海上を直線ですぐ短絡効果がある航路であっても、船のス

ピードは陸上交通機関に劣ることが多く、さらに船の初期投資額は大きいく、運航要員も高度専門職であるために人件費が高くなります。

しかし海外に目を転じれば、都市周辺での海上コミュニケーションが発達している大都市は少なくはありません。

米ニューヨーク、豪シドニー、英ロンドン、独ハンブルグやキールなどでは、海上コミュニケーションが都市交通機関の一つとして

大阪湾水上コミュニケーションタ構想

その後、神戸空港が開港されて、関西国際空港とを海上を一直線で結ぶメリットが見直されて、今もその航路が維持されています。

そして、再び、小型船による海上アクセスが注目を集めています。それが、大阪湾の埋め立て地である大阪市の人工島「舞洲」で開催される大

データブック

ある野生生物」を発行した。鳥羽市がこうしたガイドブックを出すのは初めて。

3年間の調査で400種以上の動物、植物を

「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」などに分類して掲載。鳥羽の海の現状の状況を把握することをきっかけに、海洋生物の保全の役割を果たすとともに水産振興、観光分野におけるエコツーリズムや教育現場など幅広く活用していく。

レッドデータブックは絶滅のおそれのある野生生物に関する種名、生息地、分布、現状、減少要因などの情報を記載した図書。1996年に主にIUCN（国際自然保護連合）が作成したものに始まり、現在は各国や団

体などが多数作成している。価格は77000円。

使って実旅 地元の人や漁師を含む40人以上が協力した。

同書では、今回の調査

で貝類の「ヒメアカガイ」が「絶滅」に唯一分類された。2011年に死んだ殻が最終された以降、確認されていない。

鳥羽で初めて確認されたものとして、魚類でカジカ科の「ウツセミカジカ」、ハゼ科の「タビラクチ」 「イドミミズハゼ」が掲載されている。

同書を作った鳥羽市観光工課は「レッドデータブックは、今後変わっていく自然環境を知る上で貴重な資料になると考えている。同書通して、鳥

羽の海の現時点の状況を把握することをきっかけとすれば」と話す。

同書は、700冊を発行。鳥羽市立海の博物館やECサイトAmazonで購入できる。サイズはA4判、298ページ。販売価格は77000円。

私の旅行スタイル

ふるさと納税。



鳥羽に旅行するなら「宿泊観光周遊券」でよりお得に!!
寄附金額10,000円の場合、3,000円分の宿泊観光周遊券をお贈りします。

一般社団法人
鳥羽市観光協会

〒517-0022 三重県鳥羽市大明東町
TEL.0599-25-3019 FAX.0599-25-6